



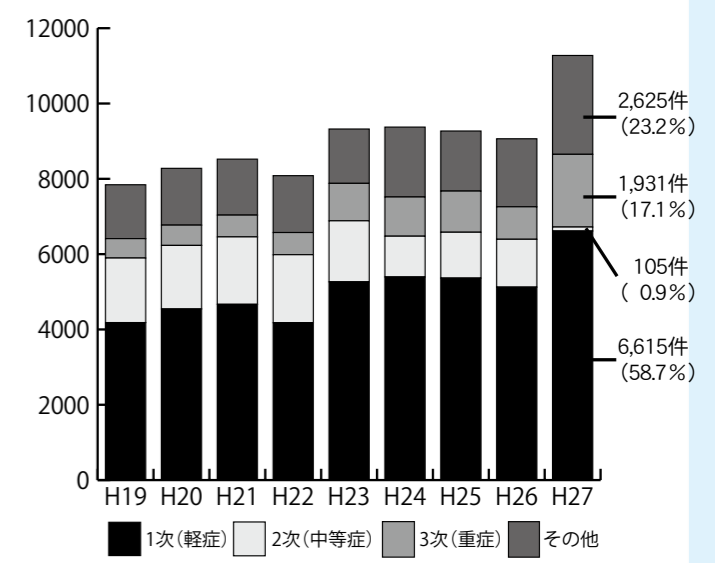
家族と、友人と、地域と、もう一度考えたい

# 救急医療のこと

救急医療の現場では、その利用方法の適正化が問題視されています。今回は、大崎市の救急医療体制と問題について考えてみましょう。

健康推進課保健・地域医療担当  
☎ 5311

グラフ1：過去10年間の大崎市民病院救命救急センター利用患者の重症度内訳



## 大崎市の救急医療体制

救急医療とは、緊急の処置や治療が必要な、けがや病気のことに對して行なわれる医療のことをいいます。

けがや病気の程度により、初期救急・二次救急・三次救急の三段階で対応しています。

■初期救急とは  
初期救急は、外来の診察治療で対応可能な患者が対象です。平成27年4月から、「平日夜間」の初期救急の診療は、大崎市夜間急患センターが行い、「休日の昼間・夜間」は、大

崎市医師会と加美郡医師会の休日当番医が診療を行っています。

■二次救急とは  
二次救急は、入院治療を必要とする重症救急患者が対象です。

■三次救急とは  
二次救急では対応できない複数診療科にわたる、特に高度な処置が必要な患者や重篤な患者が対象です。  
三次救急は、大崎市民病院の救命救急センターが担っています。救命救急センターでは、

## 救急医療の「コンプレックス」

いま、全国的に「救急医療のコンプレックス」が問題になっています。

救急医療への安易な受診は、一刻を争う患者の診療を妨げるだけでなく、昼夜を問わず人命を救うために努力を続ける医師や看護師の負担を重くし、医療従事者の減少から地域医療崩壊の危機を招き

## 安易な救急医療の利用

救命救急センターは、救急車やほかの病院から搬送される、急性心筋梗塞や脳卒中、重度の外傷など、重篤な患者を診療する施設です。

しかし、全体の約6割は、直接来院する軽症患者で、中には「ずいぶん前からお腹が痛かった」「普段病院でもらっている薬が欲しい」「会社や学校のため、日中には病院に行けない」「待ち時間が少なそう」など、自分の都合を優先した、

## 自分のことって

もし、一刻を争うような体調の急変を来したのが自分や家族だったら。そのとき、救急車や救命救急センターが当たり前に使えない状況だったらと想像してみてください。安易な利用はできないはず。本当に高度な救急医療を必要とする人のため、適正な利用について、理解と協力をお願いします。

## 夜間救急のサポート体制

風邪や打撲など軽症の場合	→大崎市夜間急患センター または救急当番医へ 広報おおさきの裏表紙や市ウェブサイトを確認してください。あくまで応急処置です。翌日には、かかりつけ医などの医療機関を受診してください。
どう対応してよいかわからない場合	→夜間救急電話相談へ 受付時間 19:00～翌朝 8:00 【おとな(15歳以上)】 ☎ 0120-349-119 【こども(15歳未満)】 ☎ #8000 ※広報おおさき裏表紙参照

## ウェブサイト に情報満載

＝こどもの救急情報＝  
夜間や休日などの診療時間外に医療機関を受診するかどうか判断の目安などを提供しています。  
<http://kodomo-aq.jp/>

＝宮城県医療機能情報提供システム＝  
県内の医療機関の所在地や診療科、診療時間などの情報を提供しています。  
<http://medinf.mmc.or.jp/>

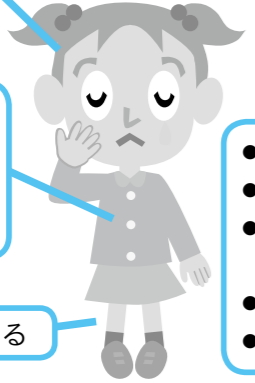


## こんなときは！迷わず 救急車を呼びましょう

- 唇の色が紫色
- 顔色が明らかに悪い

### 幼児の場合

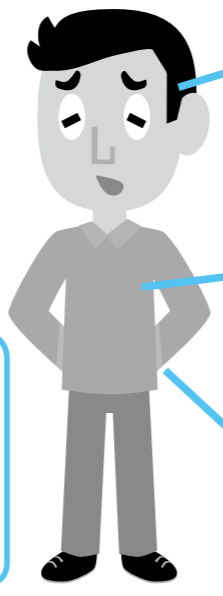
- 激しい下痢や嘔吐で水分が取れず食欲がない
- 激しいお腹の痛みで苦しがる



- 意識・返事がない
- 呼吸が弱い
- 食べ物をのどにつまらせて呼吸が苦しい
- 突然の激しい頭痛
- 高熱が続く

- 手足が硬直している

### 大人の場合



- 顔が動きにくい、しびれる、ゆがむなど
- 視野がかける、二重に見える
- ろれつがまわりにくい、話せない

- 胸の中央が締め付けられる、圧迫される
- 痛む場所が移動する
- 支えなしで立てない、ふらつく

- 突然のしびれ
- 力が入らなくなる